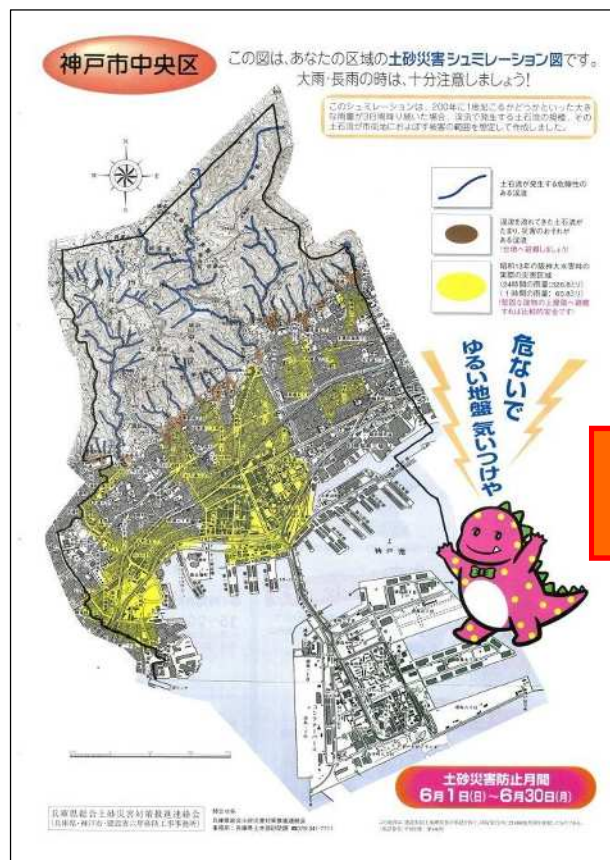


広報誌による危険予想区域図の軌跡

神戸市広報紙(防災特別号)の防災ガイドより

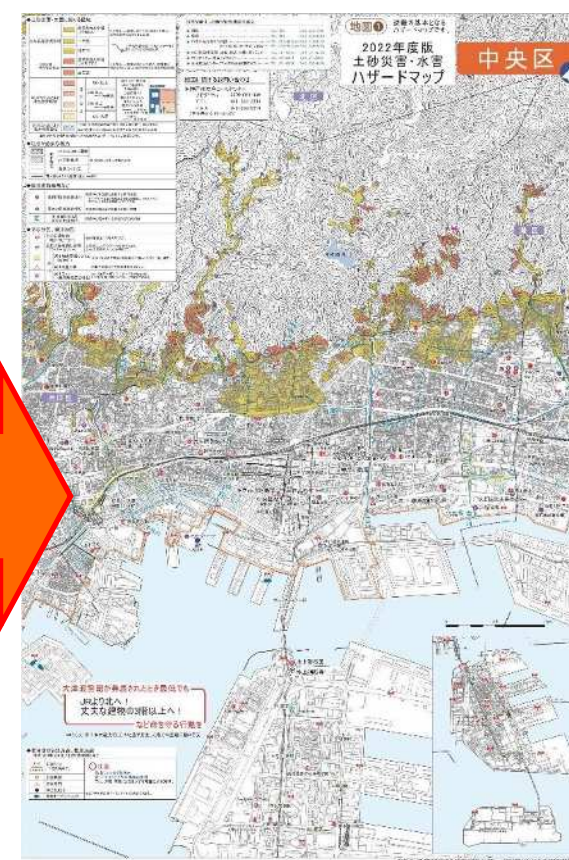
平成9年



平成18年



令和4年



土砂が発生する危険性のある渓流

渓流を流れてきた土石流がたまり、災害のおそれがある渓流
台地へ避難しましょう！

昭和13年の阪神大水害時の実際の災害区域
(24時間の雨量: 326.8mm)
(1時間の雨量: 60.8mm)

堅固な建物の上層階へ避難すれば比較的安全です！

図中に示す記号の説明

記号	箇所名	補足説明
土石流危険渓流	土石流危険渓流	土石流の危険がある渓流です。大雨の時には谷や斜面にたまつた土・石・砂が一気に流れ出す危険のある箇所を示しています。
がけ崩れ危険箇所	がけ崩れ危険箇所	雨が降り続くとがけの地表に水がしみ込み、弱くなった斜面が瞬時に崩れ落ちる危険のある場所を示しています。
地すべり危険箇所	地すべり危険箇所	比較的ゆるやかな斜面で、地表のすべりやすい面が地下水の影響などでゆっくりと動き出す危険のある場所を示しています。

図中に示す記号の説明

記号	名称	説明
急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	がけ崩れ、土石流、地すべりが発生した場合、危害が生ずる恐れのある区域
土石流	土石流	土石流危険渓流: 土砂と水が一気に流れ出す恐れのある渓流
地すべり	地すべり	
急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)	がけ崩れ、土石流が発生した場合、建築物に損壊が生じ、著しい危害が生ずる恐れのある区域
土石流	土石流	

※指定手続き中、予定地を含む

最新の情報は神戸市情報マップや兵庫県CGハザードマップでご確認ください。

大雨による土砂災害から身を守る！

六甲山系「降雨状況通知システム」

近年、ゲリラ豪雨（局地的集中豪雨）や台風の接近等に伴う大雨により、土砂災害が多く発生しています。

「降雨状況通知システム」は、六甲山地周辺（神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市）の大雨情報をいち早くお知らせする携帯メールを利用したシステムです。

六甲山地周辺にお住まいの方はもちろん、ハイカーの皆様が安全にハイキングを楽しんで頂くための手段として、ぜひご利用下さい。



まだまだ降りそう。
避難の準備を
しようかな。

雨が強くなりそう。
早く安全な場所
まで行こう！



メールが届いたら急な斜面には
近づかないようにしましょう！

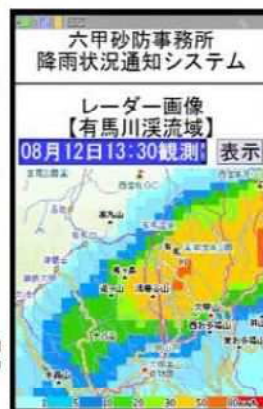
六甲山地周辺で
大雨が・・・

メール送信

携帯電話、スマートフォン、
PCに対応！

【有馬川流域雨量情報】	
2013/04/14 20:05:00	
有馬川流域で雨が降っています。	
今後の雨に注意して下さい。	
10分平均雨量(※)の推移	弱い雨
【現在】20:05:00 10.5mm/h	
【5分前】20:00:00 5.6mm/h	
【10分前】19:55:00 4.2mm/h	
※流域内の平均的な降水量	
詳細はこちら	
http://www.bousai-mail.jp/rokko/?c=7	
▼アンケート調査はこちら	
http://rokko.on.sarena.ne.jp/research/top.php	

詳しい雨の
状況は
WEBで確認



※画面イメージ

※画面イメージ

○登録は、rokkoinfo@bousai-mail.jpに空メールを送信！

※空メール送信後、「登録のご案内」メールが届きますので、受信画面の案内にそって、登録手続きを行なって下さい。

※メールの受信設定をされている方は、ドメイン「bousai-mail.jp」もしくは「rokko@bousai-mail.jp」の受信設定をお願い致します。

※本サイトは全て無料でご利用頂けますが、パケット通信料が別途かかります。

※携帯メールは六甲山地周辺で「大雨・雷・洪水」のいずれかの注意報・警報が発表されているときのみ送信されます。

詳しい「降雨状況通知システム」登録・ご利用方法は裏面に記載しています。



登録QRコード



国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 調査課

TEL:078-851-0535 FAX:078-851-0828

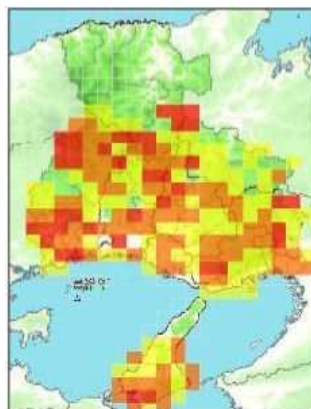
地域別土砂災害危険度について

地域別土砂災害危険度とは

「地域別土砂災害危険度」は、市町単位で発表される「土砂災害警戒情報」を捕捉するため、市町内のどの地域が「土砂災害警戒情報」の発表基準(土砂災害警戒基準)を超過しているかを示す情報です。

県内を5kmもしくは1kmに細分したメッシュの色分けにより、2時間先までの危険度を表示します。
またメッシュをクリックすれば、これまでの降雨と今後の降雨予測を考慮した危険度推移グラフをみることもできます。

- 現在、土砂災害警戒基準を超過
- 1時間先に土砂災害警戒基準を超過
- 2時間先に土砂災害警戒基準を超過



地域別土砂災害危険度のインターネット公開

【PC向けサイト】

<http://sabo.civil.pref.hyogo.lg.jp/chiikidosya/>

【携帯端末向けサイト】

<http://sabo.civil.pref.hyogo.lg.jp/mobile/>

※携帯端末向けサイトは、QRコードにてURLの登録が可能です。



携帯電話でQRコードを読み取って下さい

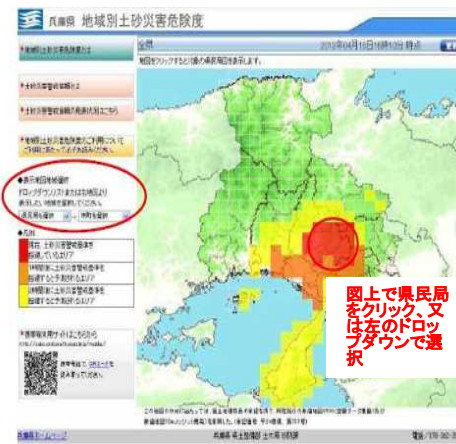


**** 地域別土砂災害危険度の見方 ****

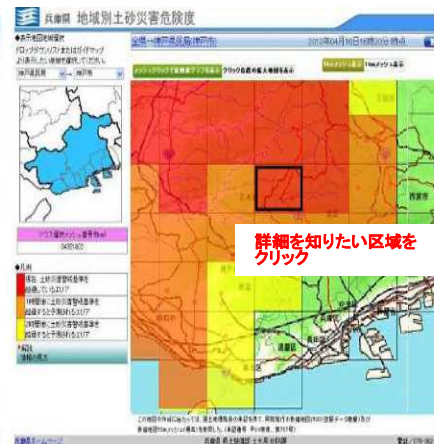
①



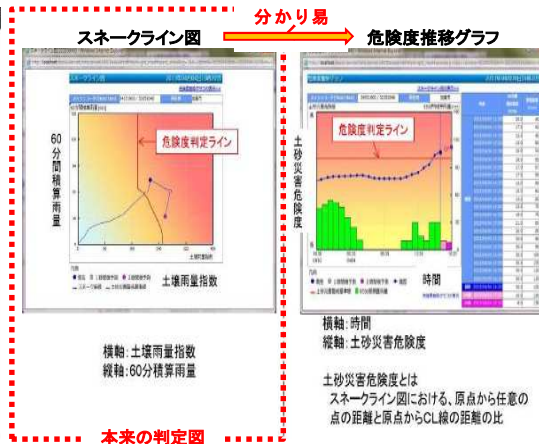
②



③



④



土砂災害防止法について

■土砂災害防止法とは■

土砂災害から国民の生命を守るため

土砂災害のおそれのある区域（土砂災害警戒区域等）を示して

- ・危険の周知、
 - ・警戒避難体制の整備、
 - ・開発行為の制限、
 - ・建築物の構造規制、
 - ・既存住宅の移転促進 等
- ソフト対策を推進しようとするもの。

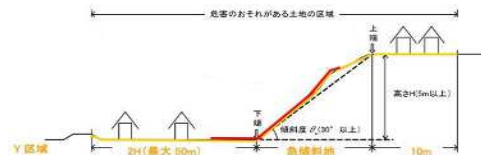
■土砂災害警戒区域の種類■

急傾斜地の崩壊

※傾斜度が30度以上である土地が崩壊する自然現象

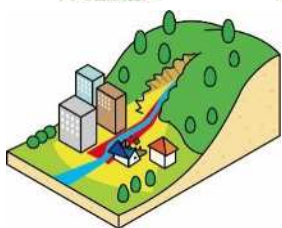


- イ 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ロ 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ハ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍以内の区域（50mを超える場合は50m）



土石流

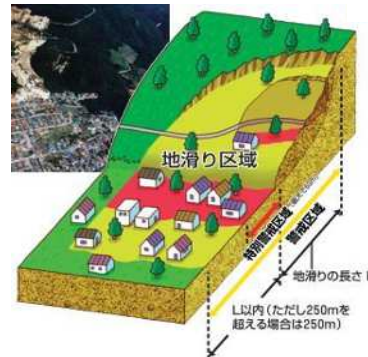
※山腹が崩壊して生じた土石等又は渓流の土石等が水と一体となって流下する自然現象



土石流の発生のおそれのある溪流において扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

地滑り

※土地の一部が地下水等起因して滑る自然現象
又はこれに伴って移動する自然現象



- イ 地滑り区域（地滑りしている区域または地滑りするおそれのある区域）
- ロ 地滑り区域下端から、地滑り地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は250m）の範囲内の区域

■何故土砂災害警戒区域を指定するのか？■

- 危険箇所の対策工事（ハード対策）には膨大な時間と費用を要する。
- 対策工事と併せて危険箇所を明らかにして、警戒避難体制の整備などソフト対策を充実させる。
- 日頃の備え。早めの避難。

■土砂災害警戒区域に指定されると・・・■

危険の周知、警戒避難体制の整備が行われる

- 1 市町村地域防災計画への警戒避難体制の記載
- 2 災害時要援護者関連施設利用者のための警戒避難体制の整備
- 3 土砂災害ハザードマップによる周知の徹底
- 4 宅地建物取引業者は宅地建物の売買にあたり警戒区域内である旨について重要事項説明を行うことが義務付けられている

■土砂災害特別警戒区域に指定されると・・・■

特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われる

- 1 特定の開発行為に対する都道府県知事による許可を要する
- 2 建築物の構造に対する指定検査機関の確認を要する
- 3 建築物の移転等の都道府県知事による勧告（支援措置有り）
- 4 宅地建物取引業者は宅地建物の売買にあたり特定の開発行為の制限に関する重要事項説明を行うことが義務付けられている

■警戒区域と特別警戒区域■

土砂災害警戒区域

土砂災害のおそれがある区域

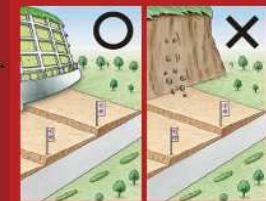


警戒避難体制の整備
土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれがある区域において、警戒避難体制の整備が図られるよう、市町村が取り組む。

警戒区域では

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域



特定の開発行為に対する許可制
住宅等が密集する区域において、土砂災害のおそれがある区域に、土砂災害防止法に基づき、建築物の構造規制等が行われる。



建築物の構造規制
土砂災害時に建築物が損壊するおそれがある区域において、建築物の構造規制等が行われる。



建築物の移転勧告
土砂災害時に建築物が損壊するおそれがある区域において、建築物の移転勧告等が行われる。

特別警戒区域ではさらに

くらしの防災ガイド

2022年度
保存版

感染症の流行に関わらず
自然災害はやってきます
大切な人の命を守るために、
十分に備えましょう！

くらしの防災ガイドには、災害に関する正しい知識や適切な避難行動、避難先の確認、日ごろの備えなど、大切なものを守るための情報をわかりやすく掲載しています。ホームページでは「動画による説明」もしています。すぐ手に届くところに保管して、災害から命を守りましょう。



紙面に関するお問い合わせ先

神戸市総合コールセンター (年中無休 8:00~21:00)

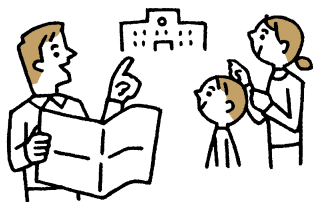
ナビダイヤル **0570-083330**

TEL **333-3330** FAX **333-3314**

災害発生時はハザードマップの緊急連絡先をご覧ください。

今日から、すぐにできること

住んでいる地域の危険性、緊急避難場所を確認



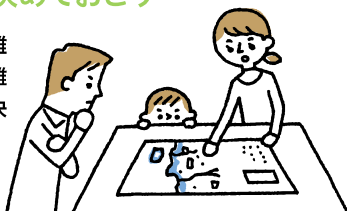
災害時、落ち着いて行動できるよう、様々な避難ルートを想定し、あらかじめ避難にかかる時間を確認しましょう。

家庭内備蓄や非常持ち出し品を準備



家族のルールを決めておこう

本紙の「4 わが家の避難ルール」を活用し、避難先や連絡方法などを決めておきましょう。



避難とは「難」を「避」けることです。最も安全な避難を考えましょう。

①在宅避難

安全な場合は自宅での避難



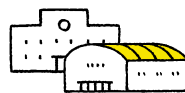
②分散避難

親せきや知人の家、宿泊施設など安全な場所へ避難

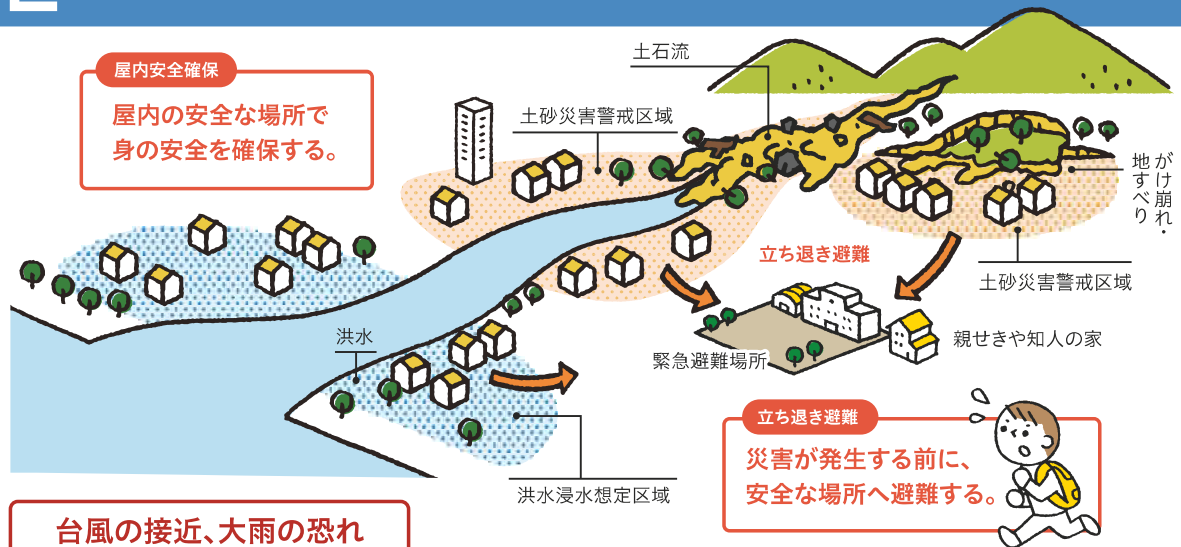


③緊急避難場所

危険なときは迷わずに緊急避難場所へ



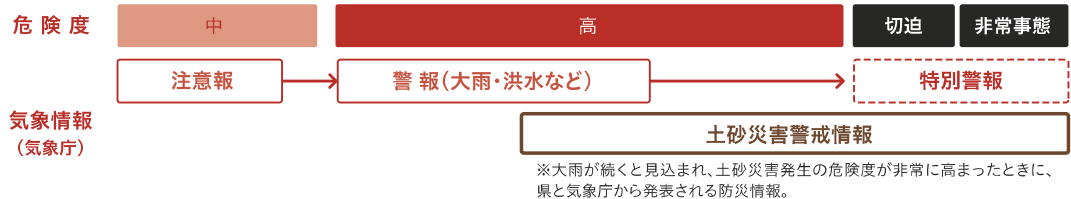
2 台風・大雨時の避難行動



台風の接近、大雨の恐れ



気象情報や避難情報に特に注意！



避難情報 (神戸市)



警戒レベル3 高齢者等避難

危険な場所から高齢者等は避難

警戒レベル4 避難指示

危険な場所から全員避難

警戒レベル5 緊急安全確保

命の危険 直ちに安全確保

判断 情報をもとに、避難を始めるタイミングを決める

行動 ①立ち退き避難

災害が発生する前に、土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域の外にある緊急避難場所、親せきや知人の家などの安全な場所へ徒歩で避難する。

既に安全性の高い建物にいる場合

行動 ②屋内安全確保(在宅避難)

ハザードマップなどで確認した浸水想定等に応じて、上階への避難や高層階に留まること等により、計画的に身の安全を確保する。(浸水深より居室が高いなど身の安全を確保できるか、水がひくまで我慢でき、水・食糧の備えが十分かなどを確認)

避難指示 / 警報などの解除

確認 自宅が被災して帰宅できない **NO** → **行動** 帰宅する

YES →

行動 避難所や知人宅などへ

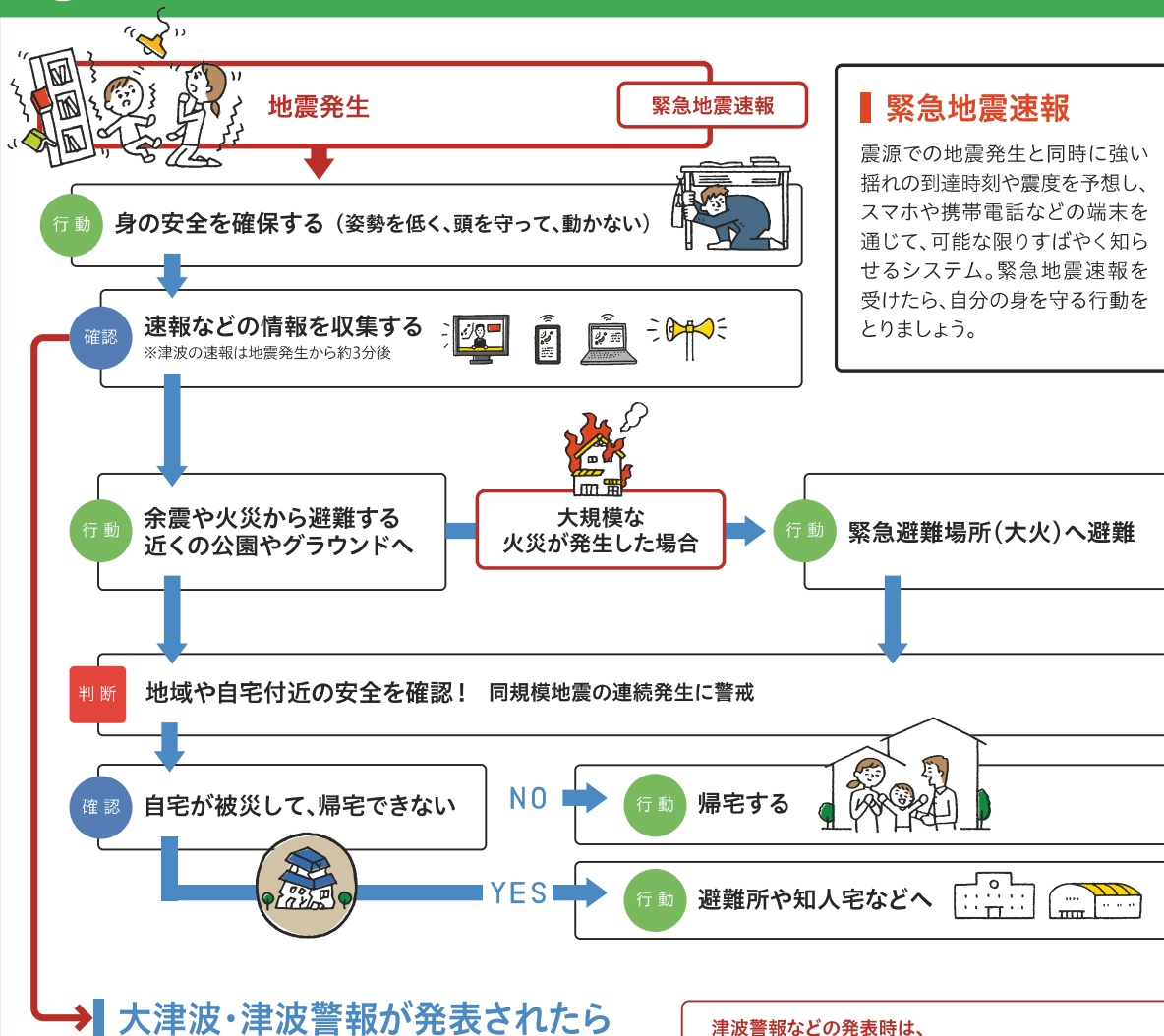
緊急安全確保(警戒レベル5)とは…

緊急安全確保の発令時で①②ができていない場合、土砂や水が流れ込む恐れのない上層階等の屋内の少しでも安全な場所や近くの丈夫な建物の上層階等、今いる場所より相対的に安全な場所へ緊急的に移動することを呼びかけるもの。

時間帯や屋内外の情報をもとに、判断！

- 例) ☐ 大雨や夜間によって視界が遮られる場合
- ☐ 暴風による飛散物による被災の恐れがある場合
- ☐ 周囲がすでに浸水していたり、土砂災害が発生し被災する恐れがある場合

3 地震時の避難行動



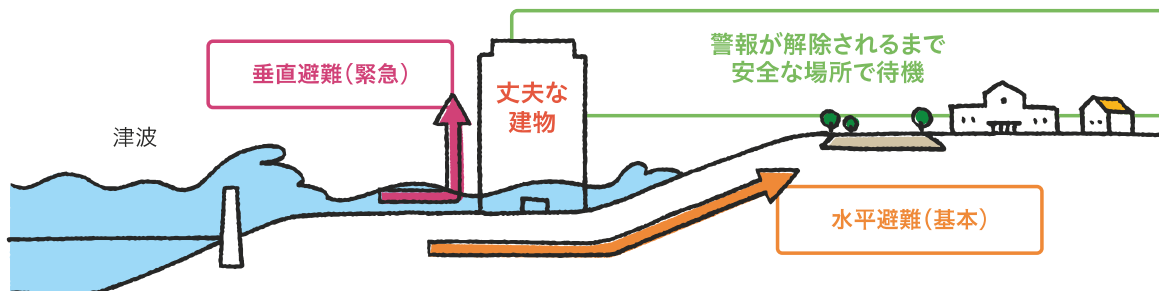
海岸から離れて高台等の安全な場所へ避難

ハザードマップに避難行動の目安を掲載しています

津波警報などの発表時は、予想される津波の高さも表示されます。

	予想される津波の高さの表記方法	
	数値での発表	巨大地震の場合の表現
大津波警報 (特別警報)	10m超	巨大
	10m	
	5m	
津波警報	3m	高い
津波注意報	1m	(表記なし)

※マグニチュード8以上の巨大地震の場合、「巨大」「高い」という言葉で発表、非常事態であることを伝えます。



間に合わない判断した場合は、丈夫な建物の3階以上へ。

地域で避難計画を定めている場合は、計画にしたがって行動。

津波警報の場合でも、防潮堤より海側や海岸付近にいる方は高台へ避難。

4 わが家の避難ルール（マイ・タイムライン）

自宅は土砂災害や河川の洪水などの災害が想定される場所にありますか？

自宅の危険性を確認しておきましょう。災害時には、自らの判断で避難行動をとることが重要です。

いざというときの避難ルールを決めておきましょう。

家族の安否確認

あらかじめ確認方法を
決めておきましょう。

- ☐ 災害用伝言板(web171)
- ☐ 災害用伝言ダイヤル(171)
- ☐ SNSなど

災害の種類	自宅の危険性 「区域内」「区域外」 「安全」「危険」など	避難ルール		
		どこへ(安全な場所) 【例】「自宅」「親せきの家」 「〇〇小学校」(緊急避難場所) 「〇〇より北へ」(津波)	いつ(避難行動開始) 【例】避難情報 (高齢者等避難、避難指示) 大津波警報など	避難にかかる 時間 (準備+移動)
土砂災害				分
河川の洪水				分
地震(津波)				分

5 巨大地震を知ろう

明日かもしれない、南海トラフ巨大地震

約100～150年の周期で発生している南海トラフ地震。
近い将来、発生する可能性が高く、非常に大きな被害が
想定されています。

予想される
神戸市内の震度

最大震度
6 強

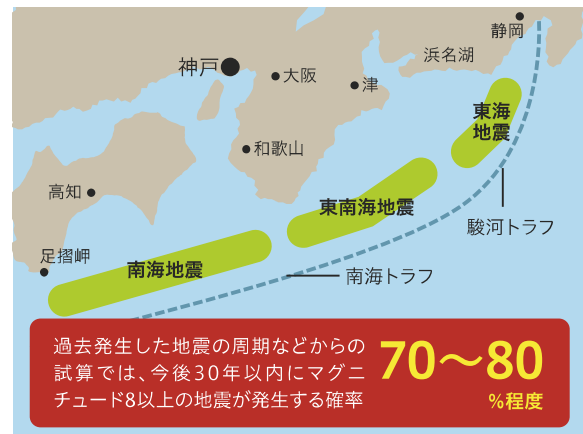
全域の震度
5 強以上



大津波・津波警報が発表されたら、
津波を想定した避難行動を！

津波到達までの時間は最速で
約80分と予想されています。

南海トラフ地震の震源域



巨大地震直後は、津波の情報も確認！

津波が発生するかどうかで避難行動が変わります。
まずは、津波に関する正確な情報を集めることが重要です。

速報は地震発生から約3分後

「兵庫県瀬戸内海沿岸」に大津波・
津波警報が発表された場合は、避難
してください。

その後も最新情報を確認

速報後、より正確な「予想される津波の高さ」
「津波の到着時間」が発表されます。最新
情報を確認し、落ち着いて行動しましょう。

津波は何度も 襲ってくる！

初めの到達から少なくとも5
～6時間、津波は何度も押し
寄せます。

警報・注意報が解除されるま
で警戒・避難を続けましょう。

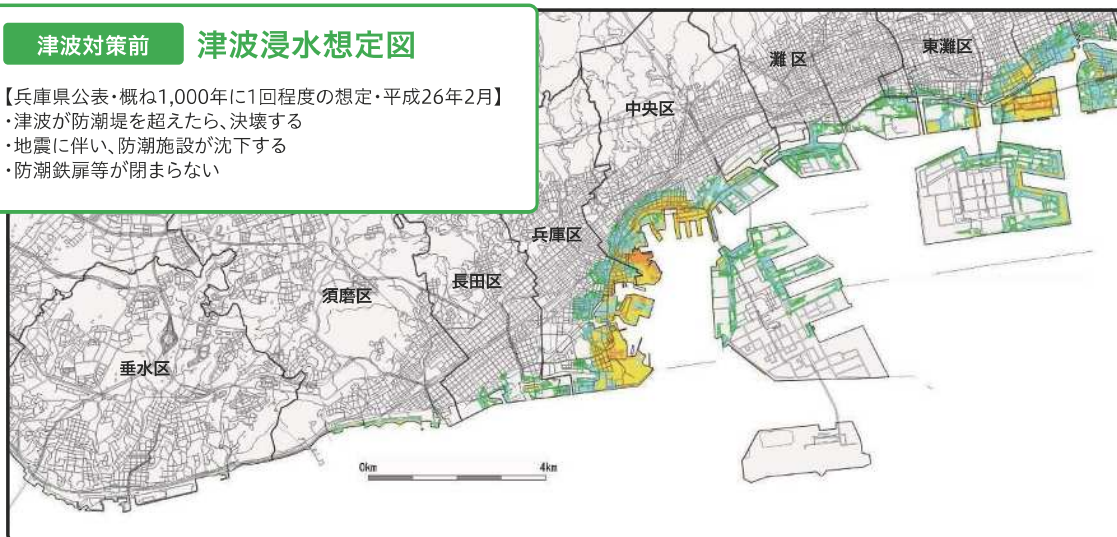
神戸港では「津波への備え」を強化しています

南海トラフ巨大地震の津波対策

津波対策前 津波浸水想定図

【兵庫県公表・概ね1,000年に1回程度の想定・平成26年2月】

- ・津波が防潮堤を超えたら、決壊する
- ・地震に伴い、防潮施設が沈下する
- ・防潮鉄扉等が閉まらない



津波対策後 津波浸水想定図

【神戸市の検討結果 令和3年4月】

- ・津波が防潮堤を超えても、決壊はしない(対策①)
- ・地震に伴い、防潮施設が沈下しても、必要な高さは保持する(対策②)
- ・防潮鉄扉等は閉まる(対策③)



防潮堤の整備

■100年に1回程度で発生が想定される津波への対策(防潮堤)は完了しています。

■概ね1000年に1回程度で発生が想定される津波への対策として、防潮堤を「ねばり強い構造(対策①)」への補強、地震に伴う沈下を見越した、「かさ上げ(対策②)」などに取り組んでおり、令和4年度中に完了します。



防潮鉄扉などの遠隔操作

■予測が困難な南海トラフ巨大地震に備え、タブレットを操作して、水門・鉄扉を「遠隔操作(対策③)」によって確実かつ迅速に閉鎖できる環境整備に取り組んでおり、令和6年度中の完了を予定しています。



6 土砂災害・洪水・高潮を知ろう

台風・大雨に注意 「ハザードマップ」でお住まいの地域を確認しましょう。

土砂災害

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)や土石流、地すべりにより起こる災害です。

- 土砂災害の恐れのある区域を「土砂災害警戒区域」(イエローゾーン)として指定しています。イエローゾーンの中でも、災害が発生した時に建物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じる恐れのある区域を「土砂災害特別警戒区域」(レッドゾーン)として公表しています。
- 自宅がイエローゾーンやレッドゾーン内の場合、あらかじめ大雨の時の避難方法を考えておきましょう。

がけ崩れ

斜面が急に崩れ落ちる現象

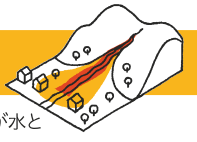


予兆

わき水の量が増える。
がけから出る水が濁る。
がけに亀裂が入ったり、
がけから小石が落ちてくる。

土石流

山や谷の土砂が水と混じり一気に流れ出す現象



予兆

川が濁ったり、
流木がまざりはじめる。
雨が降り続けているのに
川の水位が下がり始める。
地鳴りの音が聞こえてくる。

地すべり

緩い斜面が広い範囲でゆっくりすべり落ちる現象



予兆

斜面や地面に
ひび割れができる。
斜面から水がふき出る。

宅地の災害

大雨等による地盤の緩みや排水不良により、宅地の斜面や擁壁、石積みが崩れる災害です。

- 宅地の所有者や管理者は災害が生じないよう、常に安全な状態に維持・保全しましょう。



がけ崩れ



土石流

写真提供
NPO法人土砂災害防止広報センター

洪水

河川の水があふれたり、堤防が決壊することにより、はん濫が発生する災害です。

- 洪水により浸水する恐れのある区域を「河川の洪水による浸水想定区域」として公表しています。
- 自宅が洪水浸水想定区域にある場合、あらかじめ大雨の時の避難方法を考えておきましょう。



急な増水に注意!

水位は短時間で上昇することがあります。大雨や洪水の注意報・警報発表時はもちろん、雨が降り始めた時、雷が鳴っている時、上流に雨雲や入道雲が見えるときには、河川や河川内の遊歩道から、すぐに上がりましょう。



高潮

台風や発達した低気圧の接近時、海面の水位(潮位)が異常に高くなる現象です。

- 神戸港防災ポータルサイトでは、沿岸カメラの映像や潮位データを配信しています。海岸に近づかなくても海の様子を確認することができます。
- 台風等の接近時は、高潮による浸水の警戒が必要です。防潮堤の海側や海岸付近には近づかないようにしましょう。



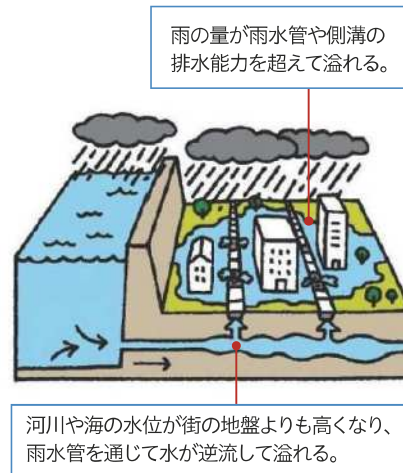
7 内水はん濫・ため池を知ろう

台風・大雨に注意

内水はん濫

大雨により雨水管や側溝の排水能力を超える大量の水が流れ込んだり、水位の上がった河川や海から水が逆流することで、雨水があふれる現象です。

- 雨水管や側溝の排水能力を超える大雨(100年に1回程度の確率で発生するもの)の時に、避難行動への支障が大きい深さ20cm以上の浸水が発生する恐れのある区域を「内水はん濫による浸水想定区域」として公表しています。
- 大雨の時は、浸水想定区域や過去に水が溢れたことのある箇所、アンダーパスや地下施設など地盤の低い箇所に注意しましょう。
- 浸水時には、水路と道路の境界が見えにくくなります。水路に転落する危険があるので、普段から水路の位置を確認し、大雨の時には近寄らないように注意しましょう。
- 内水はん濫は、次のような傾向があります。
 - ▶雨が降ってから浸水が発生するまでの時間が短い
 - ▶大雨の時には、どこでも発生する可能性があるそのため、アンダーパスなどあふれた水が溜まって浸水深が深くなりやすい場所には、特に注意しましょう。



ため池の決壊

老朽化したため池は、大雨や地震により決壊すると下流に深刻な被害を与える可能性があります。

- 決壊すると下流の家屋や公共施設などに被害を及ぼすおそれのあるため池を「特定ため池」として指定しています。



- 「特定ため池」の情報は、神戸市情報マップ(池の名称や所在地等)と兵庫県CGハザードマップ(浸水想定区域図)にて公表しています。



神戸市
情報マップ



兵庫県
CGハザードマップ

- 自宅やよく利用する施設の近くにある「特定ため池」を把握し、万が一の決壊に備え、避難方法を考えておきましょう。

ため池や用水路での水難事故

ため池や用水路での釣りや水遊びの際に、高齢者や子どもの水難事故が全国各地で発生しています。不用意に近づかないようにしましょう。



ため池や用水路の
水難事故防止について
(神戸市WEBサイト)

ため池を管理する方へ

- ・日常的にため池の状況を確認し、維持管理の内容を写真により記録しておきましょう。
- ・気象情報に注意し、天候の悪化が予想される際は、事前にため池の水位を下げる等の災害対策を行いましょう。
- ・水難事故の防止のために、注意喚起看板や進入防止柵の設置等の安全対策を行いましょう。



ため池の
適正管理に
ついて
(神戸市WEBサイト)

8 日ごろの備え ～防災力を高めよう～

1 本紙を活用し災害に備えよう

■ 自宅の危険性を確認！

ハザードマップで確認しましょう。

■ 避難先を決めておこう！

災害時には、自らの判断で避難行動をとることが重要。避難情報が発令された時の避難先や避難ルートを決めておきましょう。

■ 家族と避難ルールの共有を！

いざという時の家族の避難ルール、連絡方法を話し合っておきましょう。「4わが家の避難ルール」に記入し、見やすい所に貼っておきましょう。

2 気象・防災情報を確認する習慣をつけよう

■ 情報は日ごろからチェック！キャッチ！

警報・注意報

雨量・水位

避難情報

災害時は、停電する可能性もあります。さまざまな手段で情報収集できるよう、準備しておきましょう。



テレビ



スマホ



インターネット



防災行政無線

3 地域のコミュニケーションを充実させよう

■ 防災訓練などに、積極的に参加しよう



■ 地域での助け合い

高齢者や障害のある方等で、一人での避難が難しい方がいます。日頃から見守りや声掛けを通じて顔の見える関係を築きましょう。



災害時
要援護者支援

4 家庭内防災に取り組もう

■ 地震に強い家作り、部屋作りをしよう



耐震診断・耐震補強



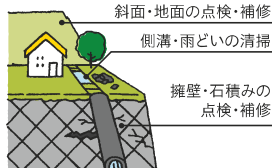
ガラスの
飛散防止



家具の転倒防止

■ 宅地を点検しよう

宅地の擁壁や石積み
が崩れないよう、日頃
から点検などを行いま
しょう。



斜面・地面の点検・補修
側溝・雨どいの清掃

擁壁・石積みの
点検・補修

5 家庭内備蓄・非常持ち出し品を準備しよう

■ 家庭内備蓄

南海トラフ地震など、大規模な災害が発生した場合、救援物資がすぐに届くとは限りません。

▶ 最低でも3日分、できれば7日分

▶ 飲料水は1人1日3リットルが目安

▶ ローリングストック法を活用しよう(※)



※食べながら備蓄の食品を定期的に消費し、食べた分だけ買い足す方法。食べながら備蓄するので、賞味期限の短い食品も扱えます。

■ 非常持ち出し品

▶ 1人ひとつ、両手があくリュックサックに

▶ 持ち出し品は優先順位をつけて、持ち出せる量に

▶ チェックリストを活用し定期的に点検を

チェックリスト

- | | |
|---|--------------------------------|
| ☐ 携帯ラジオ | ☐ タオル |
| ☐ 懐中電灯(ヘッドライト) | ☐ ビニール袋 |
| ☐ 電池 | ☐ 歯ブラシ |
| ☐ 常備薬 | ☐ 救急薬品 |
| ☐ お薬手帳 | ☐ 食料 |
| ☐ 貴重品 | ☐ 水 |
| (印鑑、通帳、健康保険証、免許証など) | ☐ ティッシュ |
| ☐ 現金 | ☐ 衣類 |
| ☐ マスク | ☐ 防寒具 |
| ☐ 消毒液 | ☐ 雨具 |
| ☐ 携帯電話、スマホ(充電器も) | ☐ 虫よけ |
| ☐ 軍手 | |
| ☐ その他必要なもの | |



6 新型コロナウイルス感染症に備えよう

緊急避難場所での接触機会を減らすため、「在宅避難」や「分散避難」など避難の方法を考えておきましょう。

ⓘ 危険区域にお住まいの妊産婦や重症心身障害児者が活用できる宿泊施設への避難助成があります。



新型コロナを
踏まえた
災害時の避難



宿泊施設への
避難助成